

海塩弘子さんの句集 (八月)

○洗車する 胸裸の青年 光とぶ

○なにもかも 焼きつくすごと 夕焼けて

○大旱 地をはるものの なかりけり

○明日をまた 暑さ予告の 夕焼けて

○終戦日 知らぬ世代の ピアスかな

○突然の 友の訃報や 夏の果て

○薺枯れし 蔓をはらへば 花可憐

○含みたる 氷果一瞬 舌をやく

○炎昼を 夜に残して サロメの月

○夏の蝶 老犬の小屋 のぞきけり

